

創立三十周年

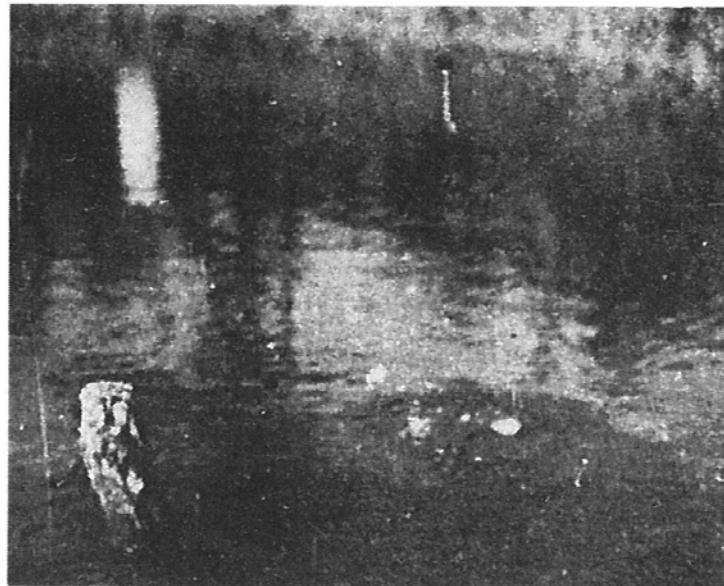


記念誌

鹿児島工業どんこ会

1997.
H9.

どんこ会の由来



ドンコプール（昭和15年）

昭和40年頃、初代会長松岡隆光（大正14年卒）先輩を中心に数名の有志から、母校卒業生の建築関係業者の親睦を図るため、お互いの語らいの場を設けてはどうかの声が高まり、暫時実行の気運が熟し、昭和42年11月会員21名を以て発足の運びとなり、当時の会員は、学生時代校庭の隅にあった「どんこプール」を偲んで会名を「どんこ会」と名付けました。

（どんこ会15周年記念誌・富山武次あいさつより）

草創30周年に思う

鹿児島工業どんこ会
会長 上山一吉



鹿児島工業どんこ会発足30周年を迎えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

母校の卒業生で建築関係を主に自営されている先輩方が、この会を設立するため会合を重ね、会名も創立当時から戦後の古い卒業生にとって母校の思い出深い「どんこプール」の愛称からどんこ会と名付け、会員相互の親睦、母校への援助、会員の資質の向上を図ること等を目的として、昭和42年11月に21名の会員で発足されてから今年で丁度30周年を迎えることが出来ました。

この歳月の移り変わる厳しい社会情勢の中で、今日までこの会が受け継がれてきたことは、各企業が長引く不況にもめげず健全な経営に務めてこられた結果であり、歴代の会長をはじめ役員、会員がお互いに協力し合い、同窓としての強い団結に因るものと確信いたします。

現在会員も65名で建築、土木、鉄工、電気、水道の建設関連の5つの部会に構成され、この中には弁護士、写真業の異業種の人もいて、今後は幅広い会員の入会を期待します。又、30年過ぎた今では、どんこプールを知らない会員も多くなり、世代の流れを感じます。

定例会は年2回行い、懇親会には母校の先生方、工業会会长、同窓の設計事務所関係の皆さんにも出席して頂き、母校、工業会の現況や各業界の情報交換をして交友を深め、年4回のゴルフ会も和気あいあいにやっています。

母校にも毎年、部活動の資金を援助し、工業会の事業に対しても連携を取りながら全面的に協力しているところです。

私も6代目の会長を仰せつかっていますが、此まで先輩方の築いてこられた伝統あるこの会を汚すことのないよう、又諸先輩に学んできたことを後輩の皆さんに伝え、会の存続のために役立つよう務めていきたいと思います。

30周年を機に、未だ続くと思われます厳しい経済環境を乗り越えていくため、会員一同が同窓の絆を更に固めながら、21世紀に向けて会が飛躍しますと共に、母校の益々のご発展と会員皆様のご健勝をお祈りしつつ、ご挨拶といたします。

鹿児島工業どんこ会創立30周年を祝う

鹿児島県立鹿児島工業高等学校

校長 茶 圓 正 敏



このたび、鹿児島工業どんこ会が創立されて30年を迎えたことに對して、心から祝意を表したいと存じます。また、30周年記念誌が上梓の運びになりましたことにもお喜びを申し上げます。

かねてから、母校であります鹿児島工業高校の教育に深いご理解を賜り、物心両面にわたりましてご支援ご協力をいただきておりますことに、衷心より感謝申し上げます。

ところで、会員の皆様は年代は違いましても、この草牟田の同じ校舎で文武両道にいそしみながら青春時代を過ごされたのを縁にして結ばれておられます。また、業種を越えて連携され、お互いの絆を深めておられます。

本校の創立60周年記念誌の中で、当時鹿児島市長であった末吉利雄氏(機械科4回卒)が次のように述べておられます。

『鹿工魂とは何かと言わるとなかなか難しい。敢えて言うなれば、歴史の中で自然と生まれてきた堅い団結ではないか。団結は烏合の衆の力ではなくして、知性があり、合理性があり、友情の中から生まれてきて結集された力の形だ。鹿工は学校としても力のある学校であり、卒業生もまた力のある卒業生だと思います。この力を個々ばらばらにおかずには、その力を合わせ結集したればこそ今日の鹿工の評価となり、鹿工の評価は卒業生の評価となっている』

年代を越えて、多業種にわたるどんこ会の会員の皆様の結集団結は、末吉氏の評価された「鹿工魂」と言えるものではないでしょうか。

また、会の名称のもとになりました「どんこプール」は、今は知るよすがありません。

『校庭の北隅に細長い池があった。通称「どんこプール」である。この北側は傾斜しており、松林で芝生が植えてあった。そこでよく寝ころびながら、流れる雲を追い、人生を語り、将来の夢を話し合ったものである。今はその面影さえ見当たらない』(創立60周年記念誌・福迫達一教授・機械科19回卒)

「どんこプール」が埋められたのは、ルース台風(昭和26年)が猛威を振るった後の被害による校舎改築が行われた頃のようで、その姿を消してからすでに50年近くが経過しています。しかし、会員の皆様には幻のどんこプールになりましたが、見上げる空に将来の夢を描き、人生を語った池の端での思い出は尽きないものがございましょう。

最後になりましたが、どんこ会のますますのご発展と会員諸氏のご健勝を祈念申し上げてご挨拶といたします。

どんこ会30周年によせて

鹿児島工業会
会長 内 村 實



どんこ会30周年、心よりお慶び申し上げます。その間、この会を永々と発展継続してこられた大先輩の皆様に、心より感謝申し上げます。

上山会長を中心に会員もすでに60人を越えた大世帯になり、今日の隆盛を見ましたことに対し心よりお礼申し上げます。工業会のもっとも頼りとなる中核として、今後も母校のため、又工業会のためご尽力頂きます様お願い申し上げます。

母校も創立89年、来年いよいよ90周年を迎えます。先輩、恩師の築かれた輝かしい栄光と伝統を学校、PTA、工業会一体となって継承していきたいと思っております。

時に学校の改築の件ですが、昨年の総会時にご報告申し上げた状況とあまり変わっておりません。いろいろな県の事情もある様ですが、母校100周年迄には遅くとも実現されるべく学校と一体となってお互い努力していきたいと思います。

時あたかも大変革の時代になって参りました。20世紀の制度疲労した諸制度を一掃し、21世紀の新しい日本の旅立ちの準備をする時がやってきました。会員の皆様も決意を新たにして、社会のために邁進される様にお願い申し上げます。

「若くして学べば壯にして成り、壯にして学べば老にして滅びず。老に学べば死して朽せず」という言葉がありますが、人生一生勉強だと思います。また、故郷をもち、母校をもち、良き友をもった私達は幸せそのものです。そのお返しを如何にしてするか、日々考え続ける今日この頃です。皆様も母校のため、会社のため、いつまでも元気で頑張って下さい。

最後になりましたが、重ねて母校の限りない発展と、どんこ会の会員皆様のご健勝と、皆様の事業のご繁栄をお祈りいたします。

会員雑感

(昭和12年建築卒 富山 武次)
今年喜寿を迎え、経営から引退しましたので、「どんこ会」も退会致します。

(昭和13年建築卒 萩原 勝巳)
学窓を卒えて来春で満60周年を迎える頃と相なりました。少年時代には考えてみない事でした。

60年の年月は非常に長い年月に思われますが、過ぎ去った年月は非常に短いものでした。

意義のあった年月か如何かは、来年同期会を開催する予定ですので、その場で皆と充分話し合いたいと考えております。どんこ会の益々のご発展をご祈念致します。

(昭和15年建築卒 大福 清美)
小生、未だに現役中です。
来年中には予備役になる予定です。
考えれば70有余年大過なく皆様のご援助を戴いて参りました謝謝、これからは趣味の囲碁でも打ちたいと思うばかり。

同期の世話役は、伊敷の福丸敬蔵さんです。

(昭和16年建築卒 徳田 英人)

鹿児島工業どんこ会発足以来30年、早いものですね。いろんな思い出が頭の中を駆け巡ります。そして昭和15年頃のどんこプール(現在の体育館)の斜の芝生での楽しい語らい、厳しい朝礼、軍事訓練、校外実習等、残り少ない同窓生との思い出の語らい、そしてまた若い同窓生の方々との楽しい話、楽しい会です。若い同窓会員のご活躍を期待し、どんこ会の発展を祈ります。どんこ会万歳！



鹿児島縣立工業学校

大正8年5月28日 鹿児島縣立工業学校設立
機械科、建築科、家具科、各1学級
設立された5月28日が創立記念日となる
大正14年3月31日 家具科廃止
昭和2年3月5日 鹿児島縣立鹿児島工業学校と改称
昭和4年4月1日 機械科、建築科に専修科を設立
昭和5年4月1日 機械科、建築科の3ヶ年制を小學卒業程度入学の5ヶ年制とする
昭和6年3月31日 専修科を二部と改称

校章の由来
本校圖画担当の河本其山先生の
デザインで、鹿工卒業生は雄飛せよとの願望を抱
いて創作されたのがわが校の校章
である。ヒントはギリシャ神話からとり、
車輪に翼をつけて大空に羽ばたく
氣概を示したものである。

どんこ会創立30周年を迎えて

(昭和16年建築卒 小島 安範)

青空にもくもくと盛り上がる入道雲を眺めながら、どんこ会創立以来の事を思い浮かべ、先の15周年の時の事を思い、月日の経つ事の早さをつくづく感じ、15年前迄はまだ多くの先輩の方々がおられましたが、現在は富山先輩、萩原先輩、その他僅かばかりの人の名前しか出て来ない事、また南野、久木田をはじめ数人の後輩もすでに他界し、悲しみが一段とつおり寂しい限りです。

思えばこの30年間の間、私共社業を通じ、私生活共どんこ会と共に歩いてきました。年4回のゴルフを通し、また年2回のどんこ会総会に於いて会員の皆様と先輩後輩の長幼の序を守りながら、また時には胸襟を開き、共に飲み、共に歌い、楽しく過ごさせていただき、その間色々とご指導ご鞭撻をいただきながら今日迄やってこられた事に対し、先輩各位をはじめ会員皆様方に深く感謝を申し上げたいと思っておる次第です。私も現在では上山会長を中心に、副会長として会の運営に参加させて戴いておりますが、力不足で何も出来ませんけれども、一生懸命頑張っている所でございます。どんこ会も今後若い人達の入会を促進し「鹿児島工業ここに有り」の先輩諸氏が築かれ、指導してこられました気迫と温かき友情を以て前進する事を祈念し、皆さんと共に盛り上げていけたらと思っております。過去の思い出は走馬灯の如く私共の脳裏をかすめて、あれもあったこれもあったと良い事、またまずかった事、楽しい事、苦しい事、思い出はつきませんが、21世紀

に向かって希望と勇気を持って会員一同協力をしながら、どんこ会が益々発展致します事を期待すると共に、会員の皆様方の益々のご隆盛を念じてやまないものです。その他の会の運営についても、今後会員の皆さん方と話し合い、他の学校の同窓会に負けない愛校心と団結を守り進みたいものだと考えております。会員の皆様方の一段の奮起と協力を期待するものです。はなはだとりとめのない事を申し上げました。どんこ会の運営に対し、いささか私見を申し上げますと共に、鹿児島工業どんこ会の30周年をお祝い申し上げます。

(昭和21年建築卒 山下 賢一)

校門を見る度に奉安殿表玄関左側の庭を懐かしく思い出します。

(昭和23年建築卒 上原 清徳)

卒業より、はやくも50年経ちました。皆様方の御活躍をお喜び申し上げますと共に、どんこ会員の益々の御健闘をお祈り致します。

(昭和24年建築卒 藤原 國雄)

鹿児島どんこ会創立30周年記念おめでとうございます。卒業して早50年位なりますが、私ごとき浅学非才な者を今まで御指導頂きありがとうございました。今後、知識と経験をいかし皆様方と協力しながらどんこ会の発展に努めたいと思っております。今後ともよろしく。

30周年に想う

(昭和27年建築卒 羽月 信雄)

どんこ会が発足して早30周年も経ち、本当に早いものと思う今日この頃です。

ついこの前、15周年誌が出たように思います。その15年前までは、皆さん達も若くて元気があったように思えますが、30周年ともなれば、どんこ会のメンバーの方々で歴史のあられる方々が次々と亡くなり、ほんとうに残念でなりません。残っている我々で懸命にどんこ会を盛り上げていかねばならないと思います。しかし、考え方を少し変えて年に1回の健康診断を皆さんにお勧め致します。実際に自分で経験をと思い今年の年初めにやりました。これで又、飲ん方もはずみがついたと思います。これからどんこ会は若い方々のアイディアによって、良い方向へと変わっていくことだと思いますが、集合時間だけは皆様に厳守して、これぞどんこ会という一つの誇りにしてもらいたいと思います。

どんこ会で皆さんと30周年を迎えるとしている矢先に、会員の建築13年卒の萩原建設社長の萩原勝巳氏が叙勲受章、

それに建築25年卒の錦江設備工業の社長、山之内成夫氏黄綬褒章受章。さらに今年春の叙勲受章の内村建設社長、内村實氏等の受章、ほんとうにおめでとうございます。会員一同、大変嬉しく思っております。今後も一層の御発展をお祈り致します。

どんこ会の歴史の中でまだまだ立派な方がおられますので、きっと受章にたどり着けると存じます。会員の皆さん頑張って下さいませ。

何かとりとめのつかぬ作文になりましたが、御理解下さいませ。会員一同様の御健康と発展をお祈り致しながら筆を止めます。



鹿児島工業高等学校

昭和24年4月1日 鹿児島県立鹿児島高等学校第一部を高等学校統合改革により鹿児島県立鹿児島工業高等学校と改称、機械科・電気科を各1学級増設して各2学級とする

昭和25年4月1日 全日制に工芸科設置(1学級)
鹿児島市高等学校第四部(定時制)廃校により、同部の建築科・木材工芸科を本校に統合、昼間定時制とする

昭和26年3月31日 昼間定時制を廃止し、新たに定時制、夜間課程を設置、電気科・土木科の2学科を設置



(昭和30年建築卒 本田 幸廣)

冷水町を通ると、汽車通学のため、この道を毎日鹿児島駅まで歩いた頃を思いだします。

(昭和33年建築卒 原田 憲明)

学校を卒業し早、今年で39年になりました。

(昭和34年建築卒 千原 弘)

“思い出の格言”

1. 始めのベルで、眠くなり

終わりのベルで

目が覚めた

1. 徹夜のかいもなく

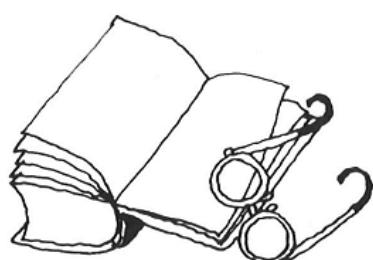
一夜明ければ

欠点に泣く

(昭和34年建築卒 上原 勝)

どんこ会の創立30周年を心からお祝い申し上げます。私共の学舎は今は一つ残っていませんが、こうした同窓の建築関係業者の集いが、長年にわたり続いていることが何よりの喜びであり、又、誇りでもあります。

これからもずっとずっと続かれんことをお祈り申し上げます。



「夢のあるどんこ会」

(昭和37年建築卒 宮内 峰)

私は縁がありまして、諸先輩方の温かい思いやりで当会に入会させて戴きました。鹿工に謂れのある「どんこ会」に入会出来ることは夢みたいなことであり、出会のたびに諸先輩方の活躍が肌にひしむと熱く感じられます。鹿児島に勤務中はこの会が自分の良き師であり、友達であります。このふれあいを大事にし、出来うれば転勤になんでも賛助会員にでもとめていただければ、なお楽しみが増えるのにと思います。

(昭和37年土木卒 田中 紘一)

昭和37年卒、(株)間組入社。関西地区で12現場21年間山岳土木現場勤務。昭和58年道公肥後トンネル、昭和62年より現職県内を営業。県を含めた自治体営業に卒業生を訪ね、親しく会話、ありがとうございます。平成5年、歴史と伝統ある会に入会。その名に恥じぬ卒業生として今後精進致しますので、今後とも御指導御鞭撻の程、何分にもよろしくお願ひ申し上げます。

(昭和42年工業化学卒 回 光一)

どんこ会30周年おめでとうございます。私も伝統ある鹿児島工業を卒業してちょうど30年になります。どんこ会の歴史と私の社会生活の経験とは同じであります。先輩の方々の築いてこられたご努力は、大変なものであったと思います。これからも永く続いてゆくことを、心からお祈り申し上げます。

健康こそが我が人生の宝

(昭和16年機械卒 山下 忠弘)

大東亜戦争勃発の年昭和16年3月、母校を卒業して既に57年。またゴツテ会長老の坂元禧夫、小川国晴、福辺正義等、諸先輩方のおすすめにより昭和49年3月、どんこ会に入会、早や23年の歳月が流れました。

その間、どんこ会の皆様には先輩後輩を問わず、大変にお世話になってまいりました。

毎年の例会、総会の度に、またあの人達と会えるかな、いっしょに飲めるかなと楽しみに参加させていただいております。

おかげ様で今のところ極めて健康で、目いっぱい仕事をしては大いに遊び、又、天文館で銳気を養っております。

振り返ってみると、ここ15年間ぐらい月平均3回程度はいろんなグループの友人、知人達と飲んでいますが、数えてみると年40回、15年で600回、原則的に2次会は2軒までとしても1次会を含めると2,000軒位は廻ったことになるようです。

これから先もトシの事は余り気にしないで、健康な限り、青年のつもりで精一杯仕事をしては、ゴルフを、旅行を、天文館を楽しみたいと思っています。

どんこ会の皆さん、天文館のどこかでお会いしたら、いっしょにカラオケでも唄って楽しい酒を飲みましょう。

健康こそが我が人生の宝です。せっかく戦争でも失うことなく生き長らえた人生です。志なればにして早く逝ってしまった級友や戦友の分まで大いに頑張って世の中のお役にたてたらと願いつつ、1日1日を大切に、より健康で充実した日々を

送りたいと頑張っています。

(昭和35年機械卒 大和田 靖憲)

自宅はペンションを経営しています。薩摩半島の最南端、長崎鼻の近くで、「フラワーパークかごしま」のすぐ隣です。開聞岳、錦江湾の眺望が抜群で、登山、ゴルフ、魚釣り、また天然砂むし温泉も近く、21世紀を先取りした滞在型リゾートの拠点として今、注目されているところです。是非お立ち寄り下さい。その名はペンション「菜の花館」です。

(昭和44年機械卒 泊 耕太郎)

どんこ会諸先輩方の功績に感謝し、又この会に私も参加させていただきありがとうございます。

どんこ会の繁栄を願うところです。

(昭和48年機械卒 佐藤 俊一)

水道工事において、鹿児島で一番よい会社と言われるようになりたいと努力しています。先輩方の御指導をよろしくお願ひします。

(昭和46年機械卒 鶴田 光二)

どんこ会創立30周年おめでとうござります。

先輩方が築かれた格式と伝統を重んじるこの会に参加させていただき、光栄に思います。これからも先輩方のご指導のもと、私なりに一生懸命精進してこの会が末長く発展することを希望します。

バラック店の想い出

(昭和30年土木卒 鶴田 高義)

私共は昭和26年入学で、終戦後間もない頃でして、校舎はバラック建て、照明は裸電球、廊下は土間でした。戦後復興の中、本校の夜間課程定時制電気科と土木科が開設されて、私は土木科の一期生として入学したのです。

当時定時制の私達は年令層もまちまちで、旧軍籍の人もいれば、旧制中より移籍の人がいたりでした。又、職場もそれぞれ異なり、店員さん、船大工さん、水道局吏員、市街復旧作業員と様々でした。私も当時、南港開港前の測量を手伝う市復興部のアルバイト生でした。昼の職場では測量、図面描き、夜は学校で教科の測量等、よるひる勉強するようなものでした。

在学中何よりの想い出は、宇宿砂浜の職場で腹をへらし自転車を30分余りこいで学校に着く前、学校の西隣にあった店に立ち寄ってコッペパンを食べ、牛乳をひとビン飲んでから授業にのぞむのが日課でした。その店は当時、田んぼに柱を掘立てた高床式でバラック造りの店でした。店でたむろする我々を、やさしく受け入れてくれた店のおばさんの姿は、おいしかったコッペパンの味とともに忘れることのできない想い出のひとつです。

先輩諸兄の築かれたどんこ会の、ますますの発展、親睦を祈ります。

独り言

(昭和41年電気卒 江藤 正幸)

先程社員が「後1ヶ月ないですね」と私に話し掛けた。直ぐには何の事か理解出

来なかったが、考えるに私の年齢が、はや50の大台に乗る。時計を高校時代に戻すと、炎天下のもと室外で朝から晩までよく遊んだ級友達の顔が浮かぶ。天文館で飲んだ時、今度、事業拡大を計り、何億円だかの鉄のマグロ船を買ったと喜んで話してくれた串木野の浜崎勝幸君、彼は残念なことにその時から6ヶ月後には他界した。一方、元気印の筆頭は中野順一君だろう。彼は卒業後、相撲取りになり十両前で廃業したが、彼の長男が親の意を汲んでか相撲界に入り、現在、琴竜という四股名で活躍中である。また、大阪で琴のお師匠さんになり、全国を飛び廻っている坂ノ下正行君、その他、みんな元気で頑張っていることだろう。しかし、不思議なことに、学校は電気科だったが電気関係に従事している学友は半分に満たない。それと同級生と会う時に感じることだけど、人間50年も生きると若さというか、年の取り方もさまざまだなあと思う。私の好きな人生観の一つの詩として、サミュエル・ウルマンの青春という詩がある。

『青春とは人生の或る時期を言うのではなく、心の様相を言うのだ。優れた想像力、逞しい意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こういう様相を青春というのだ。年を重ねるだけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる』、後略。このウルマンさんを信じて、明日も縦にも横にも広がった腹を引きずって、ランニングとジョギングをミックスしたような運動をして、リーチのかかった50の坂を登ろう。

(昭和24年電気卒 前田 伸郎)
鹿児島県旧中対抗ゴルフ大会の優勝祝
のスナップです。

昭和40年頃、鹿児島ではゴルファーは
少なく、ゴルフをする人は建設業の方々
が大半といつても過言でないくらいでし
た。その当日は過当競争もなく、景気が
良かったのでしょうね。工業はダントツ
強く連続優勝で他校は足元におよばない
状態でおもしろくなかったのでしょうか、
いつの間にか開催されなくなりました。

この写真、懐かしい顔が揃っています
でしょう。すでに他界された方が多いです
ね。御冥福をお祈り申し上げます。

私が34歳頃と思います。若くて頭の毛
もフサフサですね。



(昭和35年機械卒 秋丸 紘一(旧姓外園))

創立90周年を迎えるとする母校鹿児
島工業高校を卒業して、早37年が過ぎ去
りました。今年56才になりましたが、鹿
工高出身であることに年をとるとともに
誇りを感じているところです。

又、30周年を迎える伝統ある「どんこ
会」に入会でき、諸先輩及び同志の皆様の
御指導を戴けることに感謝申し上げます。

今後ともよろしくお願ひ致します。

(昭和37年電気卒 米元 忠博)

伝統ある学校を卒業させて頂き誇りに
思い、同窓生の皆様が全国各地、多くの
分野で活躍されている様子に力強さを感
じます。

又、今年で30周年を迎えるどんこ会へ
お祝いを一言。

この会については、随分前より鹿児島
工業高校卒の地元で活躍されている事業
家の方々が組織されていると聞いており
ました。

今から10年前に工業会本部役員会で
席を再々ご一緒させて頂いた際、米元君も
どんこ会に入らないかと徳田先輩、そして
前会長内村先輩より推薦を頂きました。

しばらく後、入会をお許し頂き、今日
に至ったのであります。

このようなすばらしい先輩会員の皆様
とご一緒に席に、そして多くのご指導等
を頂き、大変有難く思っております。

30周年の長きに渡って、立派な伝統を築
かれた先輩会員皆様へ敬意と温かい絆に
感謝を申し上げます。



「鹿工魂よ」いつまでも!!

(昭和35年電気卒 和田 正憲)

私は昭和32年、電気科に入学した。勉強の方は適当にやりながら剣道部に在籍して、護国神社の境内で練習に明け暮れていた。

剣道の先生から練習の合間に詩吟の手ほどきも受けた。それがきっかけで折りにふれて詩を吟じているうちに、早くも40年になろうとしている。

今では同好の士を月1~2回集めて大声で吟じる時、ストレスもどこかへ吹っ飛んでしまう。

また、剣道はスポーツ少年団の子供達を相手に、たまの日曜日、面や小手を打たせながら良い汗を流して楽しんでいる。

私の趣味とスポーツは鹿工時代からの延長線上にあり、青春時代の熱き心が今でも脈々と息づいている。

詩を吟じ、剣を持つ時、鹿工魂が蘇るような気がしてやまないのである!!

一 言

(昭和41年電気卒 新名 浩一)

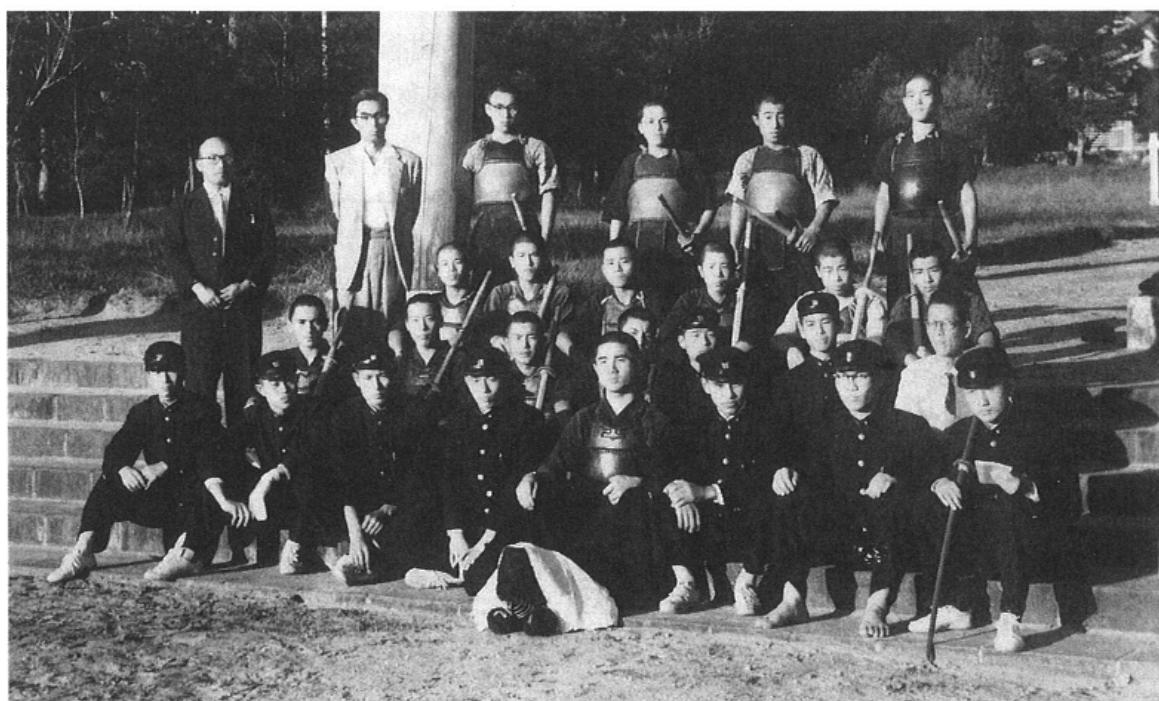
鹿児島どんこ会創立30周年、心よりお慶び申し上げます。

入会当初、ドキドキしながら参加させて頂きましたが、よき先輩諸氏にめぐまれ、色々とご鞭撻を頂いておりますことを感謝致しております。

鹿工を卒業し、どんこ会に入らせて頂き「よかったなあ」と実感しております。

これからも「どんこ会」の一員として、微力ながら協力させて頂きたいと思っております。

母校共々、どんこ会の更なる発展を祈念しております。



護国神社の鳥居の下、剣道部の諸君勢揃い

(昭和37年建築卒 当寺ヶ盛 昇)

どんこ会創立30周年、誠におめでとうございます。

小生いつかは鹿児島で働いてみたいという思いがありました。幸い平成5年に鹿児島空港工事を担当する機会に恵まれ、以来こちらに生活の基盤総て移しております。

今回「どんこ会」の末席に入れていただきました。会員の皆様よろしくお願ひ致します。

(昭和42年建築卒 芳井 一八)

どんこ会の皆さん、今後とも末永くよろしくお願ひいたします。

(昭和44年機械卒 川村 重春)

頑張っています。ベスト・オブ・ベストの法律事務所です。

(昭和45年工業化学卒 新田 博久)

どんこ会へ入会し早5~6年たち、先輩方々と色々な話をし、今までとても楽しくやってまいりました。

これからもずっとこのような会であってもらいたいものです。工業高校のOB達のために!!

(昭和56年建築卒 古川 公一郎)

私は昨年、西高校横にある鹿工高グランド内に、ラグビー部・サッカーチーム・野球部の部屋を建設する機会に恵まれました。工事期間中、常に元気よく挨拶してくれる生徒たちを、いつも頼もしく感じていました。

また今年の4月より週に1日、第一工業大学にて建築設計製図の授業をしています。私の担当する1年生のクラスにも鹿工高建築系出身の学生が2名学んでおり、その将来を楽しみに思っています。

これからも鹿工高の生徒の皆さんの学業、スポーツでの活躍をお祈り申し上げます。

校 歌

一、紫にはふ 桜島

その美はさき氣高きに
吾等の意氣をたぐても

清き流れの甲突の
夜昼食がぬいそくみに

二、仔敷の原に聳え立つ
わが精進の則を見む

空をおはうて立つ煙
工場における朝々の

天地とよす響きを
わが鹿工の行進歌

三、名君島津齊彬公

新工業を開かれ

集成館も程近し

自然に歴史に恵まれ

幸を思つていざ進め

鹿児島工業学生われら

特別寄稿

鹿児島県議会議員
山 口 修
(昭和41年卒 電気科)



鹿児島どんこ会創立30周年おめでとうございます。日頃からの御厚情に胸を熱くしながら、学校時代の思い出を綴ってみました。

私は昭和38年4月、ふるさと西之表を後にして鹿児島工業高校の電気科に入学しました。榕城中学校から唯一人の入学で言葉のハンディーもあり、一時寂しい思いをしたこともありました。

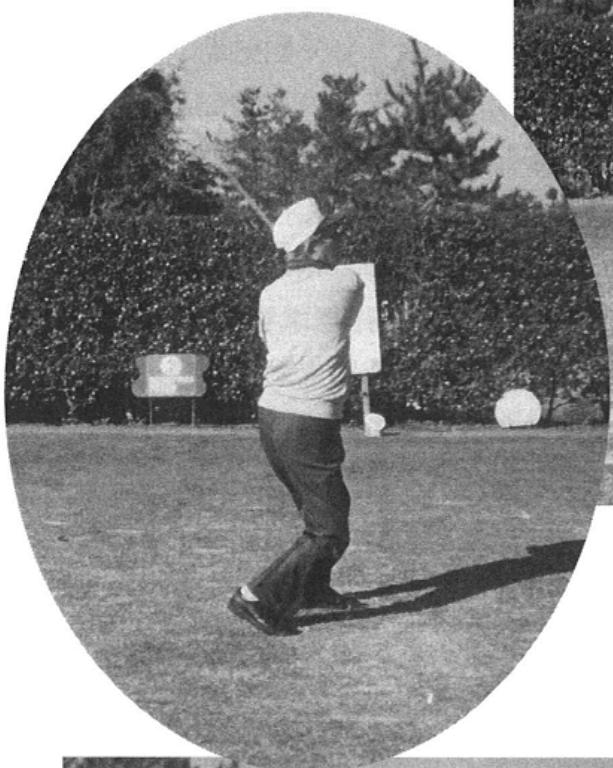
入学と同時に寄宿舎に入寮、寄宿舎暮らしは相撲部屋ではないですが、ムリ偏にゲンコツそのもので、先輩の皆さんから鍛えられたものです。6畳一間に4人の相部屋は、今では想像もできませんが、喧嘩したり勉強を教えあったり思い出の玉手箱です。食事はサバの煮つけ、カレーライス、夏の昼は豆腐一丁に漬物が定番でした。

舎監長は薬丸先生で、期末試験のとき天井裏から盗電をして100Wの電球で頭を叩かれ、したたか怒られたことを今でも鮮明に覚えています。しかし、思いやりのある父親代わりの良き先生でした。

今、このようにして県議会議員として県民の皆さんに奉仕する立場になれたのも、一重に鹿児島工業時代の3年間、みっちりと礼儀作法をたたき込まれた賜物です。鹿児島工業時代の喜怒哀楽は、私の人生の縮図もあります。学校で学んだことを人生のベースにして、県政発展のために一歩一歩確実に精進することを肝に銘じています。

〒890-0064 鹿児島市鴨池新町10-1 ☎099-286-2111
(自) 〒891-0175 鹿児島市桜ヶ丘1-2-12 ☎099-265-0102

どんこ会ゴルフ大会スナップ



どんこ会ゴルフ成績一覧表

年度		年 月 日	場 所	優 勝	1 位	2 位	備 考
S62	第1回	S62. 4. 30	吉野	塘村	田地	上小山	山島原行
	第2回	S62. 9. 25	吉野	内原(勝)	原(清)	千田	
	第3回	S62. 12. 11	吉野	上秋	山上	地	
	第4回	S63. 3. 29	吉野	丸	山	山	
S63	第1回	S63. 5. 9	吉野	小島	原(清)	藤富	崎山
	第2回	S63. 9. 29	吉野	前田	湯徳内	上藤	原(勝)崎
	第3回	S63. 12. 9	吉野	原(清)	田村		
	第4回	H元. 2. 16	吉野	地行			
H元	第1回	H元. 5. 9	吉野	富山	原(勝)	内内	村村
	第2回	H元. 9. 21	吉野	小池	田地	小田	島行
	第3回	H元. 12. 13	吉野	原浅	行池		
	第4回	H 2. 2. 22	吉野	湯	小		
H 2	第1回	H 2. 5. 11	吉野	原(勝)	内内	大秋	塚丸
	第2回	H 2. 9. 27	吉野	原島	村村	湯上	浅原(清)
	第3回	H 2. 12. 14	吉野	塘	山山		
	第4回	H 3. 5. 29	吉野	上			
H 3	第1回	H 3. 9. 26	吉野	馬	上原(清)	廻上	
	第2回	H 3. 12. 4	吉野	田	廻	小	原(勝)池
	第3回	H 4. 2. 27	吉野	木地	村田		廻
	第4回	H 4. 5. 1	吉野	有田	前		
H 4	第1回	H 4. 9. 3	吉野	馬	内	小佐	島澤
	第2回	H 4. 12. 2	吉野	田	廻	佐	澤
	第3回	H 5. 3. 11	吉野	行	伊小	大	田
	第4回	H 5. 5. 11	吉野	馬	東池	和	
H 5	第1回	H 5. 9. 9	吉野	田	廻	田久	地行
	第2回	H 5. 12. 2	吉野	村	湯	大	木田
	第3回	H 6. 4. 13	吉野	田	佐	藤	和田
	第4回	H 6. 5. 11	吉野	澤	小		崎
H 6	第1回	H 6. 8. 24	吉野	湯	秋	丸	
	第2回	H 6. 12. 7	吉野	久	上原(清)	大	和廻
	第3回	H 7. 3. 9	吉野	木地	内	西	田中
	第4回	H 7. 5. 11	吉野	行	鶴	青	木
H 7	第1回	H 9. 9. 20	吉野	田	秋	丸	
	第2回	H 7. 12. 6	吉野	前	新	田	田丸
	第3回	H 8. 5. 10	吉野	廻	小	島	村
H 8	第1回	H 8. 8. 21	吉来	上原(清)	内秋	村丸	上原(勝)木
	第2回	H 8. 10. 30	吉吉	和田	小	島	浅
	第3回	H 8. 12. 6	吉野	塘木	佐	澤	原(清)
	第4回	H 9. 3. 19	吉吉	青			
H 9	第1回	H 9. 5. 21	吉野	山	青	木	内村
	第2回	H 9. 8. 27	吉吉	廻	湯	浅	島

30年 の あ ゆ み

どんこ会発足の概況

- 鹿児島工業学校卒業生の自営業者同窓親睦会をつくってはどうかとの声をチラホラ耳にするようになったのは昭和40年頃のことです。
- そしていよいよ、これを実行にうつす機運が熟しましたのは、昭和42年8月末頃でした。それから下記の通り準備会を数回開き、大方の賛同を得て、第1回発足の会を昭和42年11月24日に開きました。

設立準備会

年月日	会の動き
S42. 9. 25	第1回設立準備会を市内双葉にて開き、会名(毎月1日に開き1日会としては、との意見が多数あった)、会員の資格と範囲等について協議。 (出席者) 富山、吉嶺、中島、重松、松岡
10. 1	第2回準備会を双葉で開き、会名、会員の資格条件、会の構成等について協議を重ねる。 (出席者) 富山、吉嶺、中島、重松、松岡
11. 1	第3回準備会を双葉で開き、会名を1日会よりもどんこ会の方が、母校どんこプールよりしてユーモラスで奥行きがあり、誰にも思い出深いことにつながりがあるとして、仮称どんこ会に決定。 会の一般会則及び会員名簿の作成等について協議。発会の日時を昭和42年11月24日に決定。 (出席者) 富山、吉嶺、中島、重松、松岡
11. 17	第4回準備会を松岡建設事務所に於て開き、会員並びに関係者に会発足案内状の発送等について検討。 (出席者) 富山、吉嶺、中島、松岡
11. 23	第5回準備会を松岡建設事務所に於て開き、会発足につき行事等の諸問題を協議。 (出席者) 富山、中島、松岡

どんこ会

年月日	会の動き
S42. 11. 24	第1回定例会即発会式を百合幸で開催し、会員21名中13名の出席を得て会の名称及び会則、その他の事項を原案通り決議し、盛大裡に会を終了した。
12. 14	第2回定例会を百合幸で開催、会員出席者多数の為、再度会則及び会の発足事由等の説明をなし、又、今後の定例会及び随時例会の際は関係先卒業生の出席を願い、協力方依頼することを決議した。
S43. 1. 30	第3回定例会を双葉で開催、関係先卒業生の出席を願い、会名、会員の構成、性質等について説明し、今後の会の発展と会員の向上発展の為の指導、協力方を依頼し、懇親会と合わせ有意義な会の中に終了した。
2. 14	第4回定例会を梅園で開催し、関係先卒業生の出席を願い、業務上の指導、研修を行う。又、本会の例会を以降、隔月に開催(但し、緊急開会の必要あるときはこの限りにあらず)することを決議した。 新入会上山一吉氏を承認した。
S44. 4. 19	第5回定例会を梅園で開催し、市長他関係担当課長の出席を得、市の現況説明と研修指導を行う。
4. 23	建築協会役員改選等の対策について、緊急どんこ会を開く。
7. 29	第6回定例会を梅園で開催し、母校開校60周年記念事業に対し、本会より寄付金の贈呈することを決議した。又、同窓会設計事務所開設者より、会加入申し込みについて、その対策と委員会設置案等の本会の在り方について協議を行う。
11. 29	第7回定例会を竹葉で開催し、設計事務所加入の問題点及び本会より要望事項等について協議。又、会員の年1回の慰安旅行実施、会則一部変更、出会遅刻者の罰金徴収強調、幹事及び会計補助の交替、設計事務所との懇談会の回数等について協議を行う。 新入会井之上保寿氏を承認した。
5. 22	第8回定例会を竹葉で開催し、会計報告(42.11—44.5)をなし、建築協会と建睦会の合同問題について説明と協議を行う。
12. 11	第9回定例会を鶴丸で設計事務所と合同忘年会を行う。
S45. 4. 16	第10回定例会を竹葉で開催し、建築協会と建睦会との問題について、経過、事由説明等を行う。